

エージェンシーの発揮を目指した教育開発 ー領域「私の時間」の新設を通してー

県立特別支援学校流山高等学園教諭 古江 陽子



1 研究開発学校として

本校は、文部科学省「研究開発学校」の指定を受け、本年度より以下の研究開発課題で4年間の研究を開始した（R3～R6）。

特別支援教育における、変化する社会で生き抜くための資質・能力とエージェンシーを育成する教育課程及び指導方法の研究開発ー新領域「私の時間」（カリキュラム「私の成長計画」）の実践を通してー

研究開発学校制度とは「新しい教育課程や指導方法を開発するため、学習指導要領等の国の基準によらない教育課程の編成・実施を認める制度(1)」である。研究開発の成果は、「教育課程の基準改訂に関する審議会の審議等の中で、具体的な実証的資料として生かされる(2)」とされている。これからのより良い教育に向けて、本校が研究開発学校として担う責任は大きいと感じている。

(1)(2) 文部科学省HP「研究開発学校について」

2 本校の研究について

本校は知的障害のある生徒を対象とし、職業に関する専門学科を設置する高等部のみの特別支援学校である。これまで「キャリア発達を促す教育課程の在り方」（H28～R2）について研究に取り組んできた。本校は、研究の成果から、学校教育目標を「自らの夢や希望に向かってよりよい未来を切り拓くために、挑戦と創造を続ける生徒の育成」と改訂し（R3）、それを具現化することでキャリア教育の一層の推進を図ろうとしている。

生徒たちが活躍するであろう未来は、変化が激しい社会が到来すると言われている。生徒たちが、そのような時代を豊かに生き抜くことができる資質・能力や、そのために必要

な教育内容は何なのであろうか。

研究は、OECD Education 2030において示された、これからの変化が激しい社会において重要とされる「エージェンシー」を手がかりとした。「エージェンシー」とは、「変化を起こすために自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力（OECD）」と定義されている。エージェンシーは本校教育目標やキャリア発達の概念と親和性が高く、「私たちのことを私たち抜きで決めないで（障害者の権利に関する条約（2014））」のように、障害のある児童生徒にとっても、変化が激しい社会の中で、自らの良さや可能性を認識しつつ、もてる力を十分に発揮しながら自立し、社会参画していくために欠かせない力と捉えている。

そこで本校は、エージェンシーの発揮に必要な資質・能力の育成を目指すため、領域「私の時間」を新設し、カリキュラム開発を行っている。領域「私の時間」は、「よりよい未来に向かって、自分の進むべき方向を見つけ、自分を舵取り・調整していく学習」である。研究では、領域「私の時間」を基軸とした教育課程を編成しながらカリキュラム開発・実践・検証を行う。

現在は、領域「私の時間」の目標の明確化、教育課程上の位置付けや既存の教科等との関係性の明確化、教育内容の開発と実践、研究の成果を分析する評価の考察等を、授業実践や校内研修会を通じて全職員で行っている。

研究を通じて、私たち教員も「これからをどう生きるか」について考えることが多い。本校研究の在り方が、これからの日本のよりよい教育や社会の変化へ寄与できるよう、使命感をもって取り組んでいきたい。